

日頃から、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。9月21日（水）に中学年分科会で研究授業がありましたので、ご報告いたします。

## 3年生 社会科 「店ではたらく人」

《目指す児童像》  
社会的事象を自分の課題として捉えることができる子

《【習得・活用・探究】の学習過程の工夫》

①探究を促す発問の設定【習得】【活用】【探究】

本単元では、「社会的事象の意味や意義を考えること」を促すために、社会的事象と出会った際に適切な発問をあたえる。具体的には、次のような発問を意図的に行う。

時	社会的事象	発問	目指す児童の学びの姿
4	利用する理由は店によって異なるが、家の人たちがよく利用するのはスーパーマーケットである。	なぜ、スーパーマーケットで買い物をする人は多いのだろうか。	多くの人がスーパーマーケットに行く秘密（工夫）を考え、予想する。【探究】
9	スーパーマーケットで働く人々は、お客さんがたくさん来るように工夫している。	「だれが」「どのような」仕事をしているのだろうか。	店内の工夫は、販売者によるものだとすることに気付く。【習得】
10	スーパーマーケットに並ぶ多くの品物は、他地域との関わりによって成り立っている。	なぜ、産地の違う商品があるのだろうか。	消費者として商品の選択ができることに気付き、自分の生活に生かせることを考える。【習得⇒活用】
12	スーパーマーケットでは、商品を売る以外に、地域の人々に役立つ地域貢献に取り組んでいる。	なぜ、環境を考えた取組を行っているのだろうか。	スーパーマーケットでは、営利目的以外のこともすることで、地域貢献をしていることに気付き、自分の生活に生かせることを考える。【習得⇒活用】

②調査活動、体験活動の充実【探究⇒習得】

本単元では、「社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想すること」を促すために、児童が身の回りの生活から課題を見つけ、解決する時間を設定する。具体的には、家庭でのインタビュー（探究）、スーパーマーケットでの実地調査（習得）の2つの活動を単元に取り入れる。家庭でのインタビューでは、「どこで」「なにを」買ったのか、「なぜ」そこで買ったのか調査する。調査後、よく買い物をするお店をグラフで表し、「なぜ、スーパーマーケットで買い物をする人は多いのだろうか。」と、児童の生活から生まれた探究的な課題を立てる。スーパーマーケットでの実地調査は、技能の習得のため設定する。課題を解決するという目的意識をもった上で、体験的に売り場の工夫についてまとめることで、技能の習得をより確実なものにする。

《ICTを活用した指導の工夫》

ICTを活用した指導の工夫	指導の目的	使用するアプリ等
児童の考えをフォームで回答し、その内容を1枚のスプレッドシートにまとめる。	自分の考えがどのように変容していったのか認知したり、自己の成長を自覚したりするため。	フォーム スプレッドシート
ジャムボード上に、多くの人がスーパーマーケットに行く理由を予想する。	スーパーマーケットに多くの人が行く要因を多角的に考え、その上で、自分の考えをまとめるため。	ジャムボード

## 成果と課題

### 成果

- 家庭でのインタビューや、スーパーマーケットの来場者数の提示と発問を通して、身近な社会的事象に問題意識をもたせることができた。
- ジャムボードを活用し、友達の意見を参考にしながら考えをまとめている点が多かった。また、「多角的に考える」ことをねらう上でジャムボードの活用は有効であった。
- ヒントカードを個別に配布することで、必要な児童が手元のタブレットでじっくりと見ながら考えることができた。

### 課題

- ジャムボードを活用する際に、相手の意見を避けて自分の考えを入力する様子が見られた。紙付箋だと「同じ意見」として数を把握しやすかった。
- 思考ツールの活用に関しては吟味が必要。スーパーマーケットの多様な工夫を考えさせたのであれば、今回活用したピラミッドチャートではなく別のツールを活用した話し合いを展開した方がよかった。
- 本時のねらい、めあて、主発問が合うように言葉を精選した方がよい。今回の場合、スーパーマーケットに人が多い「ひみつ」ではなく、「工夫」や「努力」といった言葉だと、販売者の視点に立って考えやすくなる。
- 社会科では、「なぜ」の問いが児童から生まれるような工夫をしていきたい。



第3回研究授業は、11月2日（水）低学年分科会で行う予定です。